

ピアノ演奏を軸に、映像やファッション、美術を取り込んだパフォーマンス活動を世界各地で繰り広げるオランダ在住のアーティスト、向井山朋子さん。東京でもインスタレーションとパフォーマンスで構成される展覧会「ピアニスト」を2月28日まで開催中だ。ピアノの演奏は銀座のメゾンエルメスの中で毎日開催されるのだが、毎回、開始時刻が1時間ずつずれていくという風変わったもの。正午から始まった日の翌日には午後1時、その翌日は午後2時と、日に日に遅れて演奏が深夜3時、4時に始まる日もある。連日足を運んでいると1時間ずつ自分の体内時計がずらされて軽い時差ぼけ状態になる。

「時間とは危うい存在だと思いませんか？ オランダと日本など、地球上の異なる土地を行き来していると、時間のずれを意識します。たとえば、大みそかから元旦へと移るとき、日本で大みそかの夜、時計の針が24時を回り日本の友人たちが晴れやかな気分で新しい年を迎えたまさにそのとき、ヨーロッパではまだ12月31日の夕方。私は何も変わらぬ様子で仕事をしていました。米国ではさらに時計が後戻りして12月31日の朝です。同時なのに、異なる場所にいることで生まれる時差は何なのだろう？と不思議に思うのです」メゾンエルメスでの展覧会は、時間の芸術といえる音楽

を介してこうした“時差”をひとつの場所で意図的に引き起こすようなもの。一般的な演奏会と趣を異にする音楽の聴き方は向井山さんが活動の中で常に意識していることだ。

今回メゾンエルメスには空間の中にたくさんのアップライトとグランドピアノが置かれた。この一部は、東日本大震災の津波にのまれ、激しく破損したピアノで、今までにもこれを用いたインスタレーション形式の異色のパフォーマンスを企画してきた。これらは音楽を聴く側からすれば音楽を通じた新たな世界の発見につながる。そして、何よりも向井山さん本人にとって「演奏は私自身が世の中を知るための手段」だという。

「一日の多くの時間をピアノの前で過ごします。いろいろな出来事を思い起こしながらピアノの練習をしますし、ふと思いついて誰かにEメールを打つのもピアノの練習中。幼い頃からずっとピアノを弾いてきた私はピアノを通して世界を理解してきた気がします」

とはいえ、フルートやクラリネットなどオーケストラの中で互いに呼吸を取り合い音楽と一緒に作り上げる奏者と違って、ソロで演奏が成立するピアニストは舞台上孤独な存在だ。「だからこそ、さまざまな形式を通して演奏をみなさんと共有したいんです」

INTERVIEW

interview & text: Kanae Hasegawa  
photography: Wakaba Noda (TRON)

TOMOKO  
MUKAIYAMA

向井山朋子

ピアノを通して世界を  
理解し、共有する

Profile

ピアニスト/美術家。オランダ、アムステルダム在住。近年は従来の形式にとらわれない舞台芸術やインスタレーション作品を発表。音楽のみならず美術、建築、ファッションなど幅広くコラボレーションする。

「『ピアニスト』向井山朋子展」

会場：銀座メゾンエルメス  
フォーラム(東京都中央区銀座  
5の4の1 8F) ☎03-3569-3300  
会期：～2月28日(木)  
入場料：無料 ※会期中無休・  
開館時間は日程により異なるので  
公式サイトで確認を。  
<http://www.maisonhermes.jp/ginza/le-forum>